



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

今に始まったことではありませんが、治療薬の流通が滞っています。電子カルテのメール機能に「〇〇が入手できません」「△△が消尽しました」とのメッセージが連日入ります。このところは「これじゃ治療ができないじゃないか」と怒気を含んだ独り言が口をついて出ることが多くなりました。

記憶を辿るとおよそ4年前に、とある製薬会社の抗真菌剤に製造過程で向精神薬が混入して死亡例が出た事件がありました。この頃からだんだんと薬の流通が不安定になってきたように感じます。

厚生労働省は年々膨らむ医療費を抑制するためにジェネリック（安価な後発品）を推奨しました。これによって先発品は全く売れなくなり製造を中止するか極端に縮小しました。ところが後発品の製造工場では原料が調達できなかったり製造過程の基準が守られていなかったり、医療現場に質・量ともに問題なく薬を届けることができなくなってきました。当初は一部の薬に留まっていたが、冒頭に記した通り徐々にあれもない、これもない、といった状況になり別の同効薬に変更することも厳しくなってきました。これでは治療をする上で大きな支障となりますが、かと言って解決に至るような流れは見えず不安は大きくなるばかりです。当面この状況は続きそうですが、患者さんにとって有益性と安全性を第一に考えつつ、薬剤の選択は慎重に行っていこうと改めて決意しました。

表紙写真

写真タイトル：「冬の黒沢の滝」

撮影者：樋口 孝

雪が降り、凍り付いた黒沢の滝は、寒い冬にしか見る事が出来ません。車で行く事が出来ない所以自分の足で、辿り着くしかない貴重な光景です。

クリスマスコンサート

12月16日（土）に、松本市民吹奏楽団、安曇野吹奏楽団のボランティアの方々を招いてクリスマスコンサートが行われました。コンサートでは、クリスマスソングメドレーの他に“北国の春”“川の流れるように”等の演歌メドレー、“上を向いて歩こう”等多くの患者さんが知っている曲を演奏して頂きました。生の演奏に手拍子をしたり、指揮を振るよう手を動かしたりしながら楽しそうに鑑賞されている患者さんの姿が多く見られました。患者さんからは「楽しかった」「感動した」「最高だった」等の感想が聞かれました。生演奏を楽しんだり、感動した様子の患者さんが多く見られ、いい刺激となったのではないかと思います。



当日は、クリスマスにちなんだデザートの提供を行いました。「かわいかった」「美味しかった」という好評の声が聞かれました。また、コロナウイルスによる制限があり、全病棟あつまって行事を実施するのは4年ぶりでした。行事として、大人数で集まることでの盛り上がりや、楽しい雰囲気の大切さをスタッフも改めて感じる機会となりました。



Merry Christmas



病棟レク 節分

2月の病棟レクとして各病棟で節分レクが行われました。各病棟、節分にちなんだゲームやデザートを提供が行われました。

【2-3病棟】

2-3病棟ではチーム戦にて「節分玉入れゲーム」を行いました。3つの鬼の的に5名1チームで、玉入れを行い入った玉の数を競いました。皆さん集中した様子でゲームに取り組まれていました。チーム戦で行ったため、同じチームの患者さん同士が応援し合ったり、コミュニケーションをとる場面が見られました。患者さんからは「楽しかった」「頑張った」などの感想が聞かれました。

おやつの中には、患者さんとスタッフで一緒に作ったチョコレートプリンが提供されました。すべての食形態の患者さんに食べて頂くことが出来、「美味しかった」と好評でした。



【2-2病棟】

2-2病棟では射的ゲームを行いました。的の鬼を、射的で倒し倒れた鬼の数を競うというゲームです。皆さん真剣に的を狙い、鬼の的が倒れると笑顔が見られました。射的は馴染みのある患者さんも多く、多くの患者さんに楽しんでいただけた様子でした。



【1-3病棟】

1-3病棟ではお手玉を投げて鬼の的を倒すゲームを行いました。

「難しい」という感想が聞かれましたが、お手玉を何回か投げていくうちにコツをつかんだ患者さんもいました。

皆さん、真剣な様子でゲームに取り組んでいました。



防火防災訓練が行われました

令和6年1月17日、夜間想定防火防災訓練が行われました。夜間は勤務者が少なく、初期消火から避難誘導をいかにスムーズに行うかが課題となります。火元に人を集めるのはもちろん、逆に手薄になった箇所でも安全に配慮しつつ避難することが必要で、夜間想定訓練は欠かせません。火元では、職員同士が声を掛け合い安全迅速な患者さんの誘導と、その手順の確認が行われていました。避難訓練終了後には消火設備の使用講習が行われ、消火栓、消火器の使用法を学びました。



精神科病院協会職員研修会に参加しました



令和6年3月2日、長野県精神科病院協会職員研修会が開催されました。第1部は研究発表で、当院からは看護局職員が、コロナ禍かつ終末期における対面面会の在り方について発表しました。会場からは面会許可のボーダーラインについてなど質問があり、コロナ禍で多くの病院が面会について苦慮している様子が伺われました。そのほか発表演題は精神科ケアの様々な研究や職員のモチベーション向上など多岐にわたり実践的で、当院でも多くのエッセンスを取り入れることができそうです。第2部では、薬物療法のガイドラインについてわかりやすい解説があり、最新の薬物療法の考え方について知識を増やしています。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

1年前の編集後記では、コロナウイルス関連対策が緩和され、徐々に院内への立ち入り規制が緩んでいくであろうことが書かれていました。周辺の状況などを考慮しつつ、対面面会や洗濯物の受け渡しなどが再開され、さらに本当に少しずつですが、面会時間の延長などが行われて現在に至っています。今回の安曇野日和は12月～3月の出来事をまとめています。今回もこの号を通じて、なかなか見えにくい院内の様子を感じる一助となれば幸いです。